

2019. 10. 20

畑 啓之

「我が信条 (Our Credo)」を忘れてしまったのか？ ジョンソン・エンド・ジョンソン

我が信条 (Our Credo)      ジョンソン・エンド・ジョンソンのホームページより

<https://www.jnj.co.jp/credo-jnj>

ジョンソン・エンド・ジョンソンのたゆまない歩みの礎となり、絶えず適切な方向へと導く源泉となってきたものが、ジョンソン・エンド・ジョンソンのコア・バリューである「我が信条 (Our Credo)」です。ジョンソン・エンド・ジョンソンの企業理念・倫理規定として、世界に広がるグループ各社・社員一人ひとりに確実に受け継がれており、各国のファミリー企業において事業運営の中核となっています。

タイレノール殺人事件 (タイレノール、Wikipedia)

1982年9月29日、シカゴ近郊のイリノイ州エルクグローブ村の12歳の少女が「タイレノール・エクストラ・ストレングス」のカプセルを服用したところ、

混入されていたシアン化合物によって死亡。以後計5瓶のタイレノールによって、計7名の死者を出した。この他に毒物が混入された3瓶が回収された。事件は未解決で、この後シカゴ周辺では、1986年にエキセドリン殺人事件と多くの模倣事件が発生した。

## 我が信条

我々の第一の責任は、我々の製品およびサービスを使用してくれる医師、看護師、患者、そして母親、父親をはじめとする、すべての顧客に対するものであると確信する。顧客一人一人のニーズに応えるにあたり、我々の行なうすべての活動は質的に高い水準のものでなければならない。適正な価格を維持するため、我々は常に製品原価を引き下げる努力をしなければならない。顧客からの注文には、迅速、かつ正確に応えなければならない。我々の取引先には、適正な利益をあげる機会を提供しなければならない。

この事件で、ジョンソン・エンド・ジョンソンは「タイレノールにシアン化合物混入の疑いがある」とされた時点で、迅速に消費者に対し、125,000回に及ぶテレビ放映、専用フリーダイヤルの設置、新聞の一面広告などの手段で回収と注意を呼びかけた (1982年10月5日、タイレノール全製品のリコールを発表)。およそ3100万本の瓶を回収するにあたり約1億USドル (当時の日本円で約277億円) の損失が発生。事件発生後、毒物の混入を防ぐため「3重シールパッケージ」を開発し発売。この徹底した対応策により、1982年12月 (事件後2ヶ月) には、事件前の売上の80%まで回復した。

ジョンソン・エンド・ジョンソンには「消費者の命を守る」ことを謳った「我が信条 (Our Credo)」という経営哲学があり、社内に徹底されていた。緊急時のマニュアルが存在しなかったにもかかわらず、迅速な対応ができたのはこのためである。

この事件は、危機管理における対応策の定石として認識されている。

ベビーパウダーではこの危機管理の成功例が活かされなかった。すでに訴訟が1万件も起こされ、しかもベビーパウダー中より種類は不明であるが石綿が見つかったことは、J&Jを申し開きができない状況に追い詰めている。

※ 滑石（かっせき、talc、タルク）は、水酸化マグネシウムとケイ酸塩からなる鉱物で、粘土鉱物の一種である。

タルクへの石綿含有可能性調査結果について（2006年、厚生労働省）

1. 厚生労働省においては、9月1日以降においても石綿を含有するタルクが製造されている可能性があるとの情報を受け、下記のとおり、タルクの製造を行っている33事業場に対し、緊急調査を行いました。

その結果、1事業場において、石綿を含有するタルクが製造されていたことが判明しました。残る32事業場については、法令で禁止されている石綿を含有するタルクの製造は確認されませんでした。

2. この結果を受け、厚生労働省においては、本日付けで都道府県労働局に対し、別添1のとおり関係事業者に対して指導を徹底するよう指示するとともに、関係事業者団体に対しても、別添2のとおり法令の遵守の徹底について要請しました。

※1 労働安全衛生法施行令等の改正により、本年9月1日から、石綿をその重量の0.1%を超えて含有する製剤その他の物の製造、輸入、譲渡、提供又は使用することは禁止されています。

※2 タルクとは、粘土鉱物の1つで細粉としてセラミックス原料等に用いられます。

<https://www.mhlw.go.jp/houdou/2006/10/h1016-3.html>

日本経済新聞(夕刊)  
2019年(令和元年)10月19日(土曜日)

# ベビーパウダー自主回収

## J&J 微量の石綿検出、3万本

【ニューヨーク18日電】米医療・日用品大手のジョンソン・エンド・ジョンソン(J&J)は18日、米国で販売するベビーパウダー製品の一部を自主回収すると発表した。米食品医薬品局(FDA)が行った検査で、微量の発がん性物質が検出されたという。J&Jは同製品の長年の使用ががんなどの健康被害を引き起こしたとして1万件を超える訴訟をされており、今回の検査結果は訴訟の行方に大きな影響を与えそうだ。

2018年に米国で生産・出荷したベビーパウダー約3万3000本がAから通知を受けた。J&Jはリコールについて十分な用心のため(同社と説明している)同商品の販売終了や検査ミス、アスベストが流通過程で混入した可能性などについても調査しているとした。

ベビーパウダーに使われる鉱物タルク(滑石)はアスベストと組成が似ており、鉱脈が近いことも多い。以前から採掘時の混入による健康被害の危険性が指摘されてきたダロイター

健康被害を巡る訴訟にも影響を与えそうだ



がJ&Jは一貫して混入の可能性を否定してきた。裁判でも同社が原料として使ったタルクのアスベスト汚染の有無などが係争の焦点となっており、直近ではJ&Jに1億1000万ドル(約119億円)の罰金支払いを命じた一審判決をミズーリ州の控訴審が覆す判決を下したばかりだった。